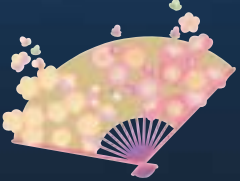







# 新春座談会

## 「市民と行政の協働による 市民総参加のまちづくりを目指して」



### ◆ 語り合った人たち ◆

青島 一郎さん

岡谷市区長会会長 新屋敷区長

井口 光世さん

岡谷市基本構想審議会 副会長

宮坂 照彦さん

岡谷市市民総参加のまちづくり  
基本条例策定検討市民会議 委員長

山岡 育美さん



岡谷市PTA連合会 副会長

山田 宮子さん

岡谷市消費者の会 会長

林 新一郎 市長

中嶋 政春 企画部長（進行）



新しい年、平成17年（2005年）が始まりました。合併がなくなり、自立のまちづくりのスタートの年となるわけですが、今年も市民のみなさんが安全で安心して健康に暮らせるまち、住んでみたい住み続けたいまちを実現できるように英知を結集して独自性のある、特色あるまちづくりを推進してまいります。

これからは、今まで以上に市民のみなさんと行政が一緒になって、ともにまちづくりを進めていくことが必要となつてまいります。

そこで、今日は「市民と行政の協働による市民総参加のまちづくりを目指して」というテーマで新春座談会を行いました。各界でご活躍されている5人の方にお集まりいただき、新春にふさわしく明るい一年になるよう、これからのまちづくりや夢について、いろいろな視点から林市長とお話をいただきました。



市長

みなさんご存知のように、諏訪の合併問題が挫折をしましてしまいました。

なぜ合併が必要かと言いますと、国の財政が700兆円にもおよぶ赤字国債で、破綻してきています。

700兆円というお金は感覚的につかみづらいですが、国民一人当たり大体550万円の借金が課せられているとお考えいただければわかると思います。

諏訪の20万人で計算すると1兆1500億円、岡谷の5万5000人で計算すると、3025億円の借金が重くのしかかっています、この解消のため三位一体の改革が始まりました。

三位一体の改革は補助金の大幅カットと、岡谷市を運営していくために主要な国からの交付税が大幅カットされようとしています。国では、3年間で補助金等を4兆円カットしていこうという計画であります。

今年度すでに第一弾が始まっており、1兆円カットされた影響で、岡谷市は交付税と臨時財政対策債を合わせて、7億2000万円の影響が出てしまいました。

当然きてしかるべき財源が7億2000万円消えてしまったとい

うことは、単純に4倍すると30億円近くが一般財源から消えてしまふという危機的な状況にあります。

合併をして、時限立法で認められた有利な起債を使って、足腰が丈夫な行政体を、10年くらいかけてつくっていくというのが合併の大きな目的でした。

本当に断腸の思いであります、

行政として改革を進めなければならぬと感じられる点

企画部長 《進行》

みなさま、それぞれのお立場で、行政として改革を進めなければならぬと日頃から感じていることや、こういう点を変えてほしいと思っていることをお話してください。

青島さん

私は合併が最大の行政改革だと思っていました。

それがなくなり本当に残念ですが、自立の道を進むにあたって、一番の問題は財政だと思えます。

行政としては経常経費を削減していくことが重要だと思えます。

言い過ぎかもしれませんが、県は副知事がいない状態です。場合によっては、市の三役を減らしてはどうかと思えます。

また、議会も合併すれば岡谷か

合併をして自立の道を進んでいくとしたのが、合併をしないで自立の道を進んでいかななくてはなりません。

本日は、これからの自立のまちづくりについて、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思えますので、お茶の間にいるような雰囲気でお話してください。

ら出る議員は減ったでしょうから、議員定数を減らしても機能は果たせるのではないかと思います。

そして、市職員も本来に必要などうか再検討して、職員定数を減らし、人件費の割合を減らす努力が必要ではないでしょうか。



それから、役所からの文書配布についても、厚い冊子や細かい資料は配布せず、要約して一見してわかるような表現の文書にして、配布物の簡素化をすることで、文書の作成過程や印刷代も節減になるのではないかと思います。

情報過多の時代ですから、要点だけをまとめて配布し、詳細が必要な人はどこどこへ、という形でもよいのではないのでしょうか。

また、一律配布ではなく、この情報はこんな人達が必要という所へ届けるなど、発信方法も工夫すれば良いのではないかと思います。

産業の面からみると、工業が人件費の安い海外に流出しています。海外ではできない高度な産業を育成して、市民の就労の場所を確保していただきたいと思えます。

医療問題として、岡谷病院・塩嶺病院の今後の方向性をはっきりさせていくことも必要でしょう。

市長

岡谷市の根幹である工業は、ものづくりがしっかりしていないと衰退してしまいます。

量産体制の主たるものが海外に移転しまった後、100万分の1ミリの加工技術を持つ超精密加工技術の世界的集積地を目指して、動き始めています。市内で40社近い企業がこの技術を持ち、ナノテ



てるひこ 照彦さん  
みやさか 宮坂

岡谷の歴史を振り返れば、昭和10年は現在の人口より多かつたにもかかわらず、職員は47人でした。この人数で運営できたのは、「製糸のまち」として市民総参加で、まちをつくっていたのではないかと

減を考えてもいいと思います。自分のまちのためにはやることですので、理解が得られるのではないでしょう。また、公共施設等の受益者負担も見直しを検討しても良いと思います。財源が削減され



みやこ 宮子さん  
やまだ 山田

クノロジーを利用した革命的なものがづくりに取り組んでおります。

市からの情報は創意、工夫、努力を重ね、よりわかりやすくしていきたいと思っております。

両病院の問題ですが、診療報酬の改定等により、病院経営は非常に厳しくなっており、二つの病院の統合・機能分担等の話し合いを進めているところであり、3月には一定の結論を示したいと考えております。

### 宮坂さん

行政は歴史的に見ても、予算面でも人員面でも拡大してきたと言えます。

これは、市民の要望・ニーズに応える為の拡大であったと思いますが、これからは今までと同じ感覚で行政が拡大していくことは不可能だと思います。

います。

ですから、合併の破綻を市民総参加のまちづくりのチャンスと捉えて、行政規模の縮小に取り組んでいかなければいけないと思えます。

### 市長

そうですね、合併破綻を言い訳にせず、これをバネにしてしっかりとしたまちづくりをしたいと考えております。

### 山田さん

私は、一市民として改革してほしい三つのことをあげたいと思います。

まず、ボランティアにできることはボランティアに任せる。二つ目として、審議会など市から委任されるいろいろな委員がありますが、その手当での廃止・削

たことで、市民が市の財政について自覚してくれるのではと思えます。

三つ目は、市内の商業の活性化をお願いしたいと思います。

以前に消費活性化を目的として、市内のどの店舗でも利用できる商品券の検討をお願いしましたが、難しいとのことでした。でも、そこを何とか実現してほしいのです。なるべく、市民が市内で消費できるような対策が必要ではないでしょうか。

諏訪湖周辺の市町村の中では、岡谷は観光が少ないと言われていますが、独自のすばらしいものがたくさんあると思います。

もっとPRをして外から人を呼べるよう、「岡谷に行ってみようよ」、「岡谷に来て良かった」と言われるようなまちづくりを検討してほしいです。

### 市長

厳しい財政の中では、負担できる人には負担してもらおうことになるだろうと思います。

目指すところは、災害に強く環境にやさしい、国際的競争力に強い企業を育て従業員にやさしい経営、そんな「強さとやさしさを兼ねそなえたまちづくり」が着実に進んできています。

なにも公共料金を無料にするのがやさしさではありません。

たとえば、福祉センターのお風呂は、代々無料という習慣がありますが、見直さなくてはいけない時期にきていると思います。

### 山岡さん

岡谷に来て10年になりますが、子どもたちが安心して住める、住み良いまちづくりを進めてほしい



いぐち こうせい  
井口 光世さん

誰のために、どう  
いう目的で、どう  
いう効果が表われ  
ているか、それぞ  
れの部署で検証し、  
内容を市民のみな  
さんに知っていた  
だくためにまとめ  
ています。  
これを見て、こ

行い、その事業が  
誰のために、どう  
いう目的で、どう  
いう効果が表われ  
ているか、それぞ  
れの部署で検証し、  
内容を市民のみな  
さんに知っていた  
だくためにまとめ  
ています。  
こうした状況の



はやし しんいちろう  
林 新一郎市長

と思います。  
私には、小学校5年と1年生の  
子どもがいますが、教育費を削ら  
れるのに不安を感じています。  
未来の岡谷を支えていくのは子  
どもたちなので、なるべく  
現況を保っていたら、きちんと  
子どもが育つまちであってほしい  
と願っています。

井口さん

岡谷市の行政事業は非常に多く  
ありますが、これだけのコストで  
これだけの効果があったという事  
業検証のシステムを構築して、市  
民に明瞭な形で示してほしいと思  
います。  
そうすれば、市民の意見・考え  
が、より具体的に反映できるので  
はないかと思えます。  
また、民間活用ということで、  
医療・介護サービス等で、民間で  
できる部分は民間に分担させるこ  
とを考えていく必要があると思  
います。  
それから市民参加の事業で、年  
に2回諏訪湖の一斉清掃があり、  
すごい人数が集まりますが、あの  
力をもっと違うところにも活用で  
きないかと思っています。  
諏訪湖がきれいになりつつあり、  
あの人数で行っても拾えるゴミが  
少なく、朝の散歩のようにも見え  
ます。  
みんなのやる気を、もっと活用  
できる機会をつくっていただけれ  
ばと思います。

市長

行政評価システムは3年前から  
動き始めており、今年度の終了ま  
では明確に提示できるように進  
めております。  
市には800の事務事業があり  
ますが、総点検を  
行い、その事業が  
誰のために、どう  
いう目的で、どう  
いう効果が表われ  
ているか、それぞ  
れの部署で検証し、  
内容を市民のみな  
さんに知っていた  
だくためにまとめ  
ています。  
また、民間活力は最大限に利用  
していきたいと思えます。  
民間活用なしに、行政は成り立  
たちませんし、民間の効率性など  
行政に取り入れるものは多くあり  
ますので、いろいろな場面で検討  
したいと思えます。

市長

これはもっとこんな方法があるなど  
ご意見をいただければと思えます。  
現在、「第3次岡谷市行政改革  
大綱」に定めた基本方針に基づき、  
市民起点の行政改革を計画的に実  
行し、一定の成果を上げていると  
ころです。  
地方自治体の将来を左右する三  
位一体の改革の全  
体像が示されまし  
たが、税源や権限  
の委譲、地方交付  
税の総額抑制など、  
地方分権の道筋が  
依然不透明なまま  
で、地方財政は、  
さらに深刻な事態  
となることが懸念  
されます。

企画部長《進行》

それでは、市長さんより行政改  
革についてのお考えを、お話し願  
いします。  
中で、自立の道を歩んで行かな  
ければいけません。  
そこで、今まで以上に財政面を  
考慮した「行財政改革プラン」を  
策定して、岡谷市らしい自立のま  
ちづくりを、市民総参加で推進す  
ることにより、難局を乗り切つて  
まいりたいと考えております。  
このプランは、大変厳しい財政  
状況の中、将来にわたり、必要な  
市民サービスの提供を確保し、独  
自性のある、特色あるまちづくり  
を継続していくことができる行財  
政基盤の確立を目指すものにした  
いと思っております。  
また、市民のみなさんにも、我  
慢していただくべきは我慢してい  
ただき、負担すべきは負担してい  
ただくことも、お願いしなくては  
いけないと考えております。  
現在、プランの策定に向けて準  
備を行っていますが、策定に当た



つては、市民総参加により、取り組んでいくことが大切です。

2月には、行政改革審議会の委員さん15名を含む20名で、仮称ですが「岡谷市行財政改革プラン策定市民会議」を立ち上げ、意見交換を行いながらプランをまとめてまいりたいと考えております。

また、素案の公開やパブリックコメントも行い、広く市民のみなさんの声を反映させるとともに、場合によっては公聴会なども開催



やまおか **山岡** **いくみ** 育美さん

態ですから、地域の住民が子どもを支えていかななくてはいけないと思います。

私の小さい頃は、地域の人が声をかけてくれて育ってきました。暗くなったら「早く帰れよ」とか、やさしく見守ってくれて、その中で安心して遊んでいました。だから、私も子どもたちに安心を与える環境をつくれるよう、あいさつを通して地域の方と知り合いたい、子どもたちにもあいさつを習慣づけて、安全で安心して暮らせる地域づくりをしていきたいと思っています。

## 市長

できることはすぐやりましょう。あいさつは、子どもをやさしく守り、すこやかに成長する環境作りにつながります。あいさつとは心を開いて相手にせまることです。

あいさつはとても大切で、家庭の中もあいさつから始まります。

## 山田さん

私は消費者の立場から、市民にできる行動はゴミ減量と考えています。

現在、一人1日約1キロ強のゴミを排出していますが、1キロの処理料に20円の費用がかかります。一人が1日100グラムずつゴ

## 市民として自ら行動しなければならないこと

### 企画部長 《進行》

市民として、自ら行動しなければいけないと考えていることについて、お聞かせいただけますか。

### 井口さん

自分自身で、どのように行動していくかということに置き換えられると思います。まちづくりは個人としてどのように参加しているかと問われると、難しいものが

ありますね。

一市民として、出来ることは何かと考える機会を自分自身で作り、あるいは考えさせてくれる仕組みがあれば参加したいと思えます。

### 山岡さん

子どもたちが、安心して生活できる環境づくりを進めていきたいです。

学校が危険にさらされている状

ミを減らせれば、岡谷全体で年間約4000万円以上の処理料が削減できます。

ゴミの減量は誰にでもできることです。

たとえば、買い物袋を持参する、レジ袋をもらわない、それだけでもゴミ減量につながります。詰め替え商品を買う、リサイクルできるものを買うといったライフスタイルをちょっと変えるだけで出来ることですので、みんなが取り組んでほしいと願っています。

また、ボランティア活動にも積極的に参加すべきだと思っています。これは難しく考えず、気楽に、かと言ってあまり無責任でも困りますが、自分がボランティアであることで、誰かが救われるという自負の気持ちでやっていただければ、やりがい生まれ次に続いていく



「ふれあいたいむ」の様子 P24参照



あおしま 青島 いちろう 一郎さん

価値観の多様化の中で、いろいろな「わくわく」が考えられますね。

市長

さら、わざわざ遠くから、山を越えてまで岡谷に人々は集まらなかったことでしょうか。

宮坂さん  
住民としてやらなければいけないことは、行政になるべく負担をかけないことだと思います。

宮坂さん

そして、市民一人ひとりが心身の健康と安全確保を心がけて、すべて行政任せにして不平不満を言うのではなく、市民の責務として自己責任でできることはやってみることが大切だと考えています。

幸い岡谷には「わくわく」に関していいモデルがあります。明治・大正の岡谷は「わくわく」していたと思います。「わくわく」するまちでなかったら、わざわざ遠くから、山を越えてまで岡谷に人々は集まらなかったことでしょうか。

市長

それには、どうしたらよいかというところ、まず、自分たちがわくわくするように心がけなければいけないという結論になりました。

女性子育てが終わると、生涯学習のような文化活動にはすごいパワーを発揮しています。

市長

議員に女性を出してほしいと要請がありました。女性が多くなかなか出てきてくれませんか。

消防団員は大事なボランティアなので、できれば、市職員も入ってほしいと思います。また、区の役員、各種団体の長等もみんなボランティアであり、人選について苦労しています。男女共同参画推進本部から、区会

青島さん

みんなが、ボランティアをすることが大切だと思います。ボランティアといっても幅は広いわけですが、たとえば、消防の分団長や消防団員になってくれる人を見つからず、区でも頭を痛めています。



なかじま 中嶋 まさはる 政春 企画部長 《進行》

子どもたちのボランティア活動が活発になっています。

市長

プライベートも開け広げた人間関係の成熟がないと成り立たないかもしれません。互助・共助を盛んにして、あまり行政に頼り過ぎることなく生活を送ることができればと思います。

のではないのでしょうか。それから、緊縮財政の中では将来的には各種団体に対する補助金のカットも、視野に入ってくることでしよう。私は消費者の会に所属していますが、市からの補助と会員の会費で活動しています。将来起こりうる補助金削減に対する対策を、今から考えなくてはいけないと思っています。

とはいえ、心がけだけでは難しいことなので、たとえばゴミ袋一つ出したら100円とか何か課してもよいのではないかと思います。このような時代だからこそ変革のチャンスと捉えれば、市民に理解されると思います。まちづくり市民会議では、みんなが望むまちづくりとは何かと考えてきました。すると、道路や建物をつくるよりも「わくわくする市民をつくる」ことが、重要ではないかという意見になりました。

たとえば、岡谷市からアレチウリを一扫しようと「わくわく」している人たちもいます。「わくわく」することは、まちづくりにとって重要なことですので、いろいろな「わくわく」を大切にしていきたいと思っています。

しかし、区の役員になってという尻込みされるが、意識改革して、そのパワーを活かして地域のボランティアとして、頑張ってもらいたいと思います。地域共通の課題として、地域福祉の互助・共助ということがありますが、言うはやすく実行はなかなか難しいことで、世間話は出来ても面倒を見合うという関係を築くということは難しいのが現状です。



岡谷南部中学校は、諏訪湖清掃で環境美化教育優良校として農林水産大臣賞に選ばれ、表彰されました。

岡谷小学校でも、数人のグループで地区のゴミ拾いを続けており、感心させられています。

## 市民と行政の協働により、岡谷をどんなまちにしたいか

### 企画部長 《進行》

市民と行政の協働により、岡谷がどんなまちになってほしいか、岡谷市がさらに発展するには何をしたらいいか、ご意見をお聞かせください。

### 市長

この点につきましては、私が先にお話ししたいと思います。昨年10月に、市民総参加のまちづくり基本条例を制定して、より

一層市民のみなさんがまちづくりに参加しやすい環境を整える基本原則をつくり、これから肉付けをしてまいります。

合併せず自立の道を歩む、自己決定や自己責任に基づき、独自性のある、特色あるまちづくりに最大限の努力を図り進めていきたいと思えます。

市民のみなさんと市とのコラボレーション（協働）をこれまで以上に推進しなければ、この財政難は乗り切れないと思っています。

市がやるべきこと、市民のみなさんに汗を流してもらうこと、役割分担を明確にして、ともに手を携えて立ち向かっていく協働が重要で、「活気に満ちた「わくわくするまち」を市民総参加でつくっていきたいと考えています。

自分もまちづくりに参加しているのだという意識を持っていただきたいと思えます。

組織だったボランティア活動だけでなく、自分の家の前のゴミを拾うだけでも、タバコをポイ捨て

しないという小さな決意をさせていただくだけでもまちづくりに参加しています。

そうしたまちづくりに参加しているという自覚を持つことよって愛市の精神が生まれ、郷土愛が根付き、良いまちづくりができます。

### 青島さん

私は働く場所があり、買い物や飲食等お金を楽しく消費できる場所もあり、安全で犯罪が少なく、福祉の手が行き届いているまちであればいいと思います。

また、意識改革してほしいこととして、最近では近くの地区の公会所へも車で来る人たちが多く、昔はみんな歩きや自転車でした。

車を使わなければガソリンも消費しないし、空気も汚さない、健康にもいい。また、区内の監視もできます。遠い所は別として、ぜひ、見直してほしいと思います。

みんなで見直しを出し合い、障害者にも高齢者にもやさしいまち、みんなに良いまちをつくりあげていければと思います。

また、工業の技術は誇れるものがありますが、ぜひ、その営業（セールス）にも力を入れてほしいと思っています。

大企業を退職された方等をアドバイザーとして、幅広い見地から

セールスを拡げれば新しい道も見えてくると思います。

### 市長

営業活動は重要なことで、岡谷は県下でも唯一、東京に事務所を設置して、大企業を退職された方に窓口になっていただいて、地元企業のセールス活動の支援を行っております。

### 宮坂さん

製糸が盛んだった頃は、先見性にたけていたと思います。

精密加工技術がこんなに発展したのも、みんなが持っている獨創性や先見性を活かした成果だと思えます。

これからもうまく取り入れていければ、経済は発展するのではないでしょう。

また、地区の子育てミニ集会とか、いきいきデイ事業など、うまくいっている事業を伸ばしていくことを糸口に、「おかやのライフスタイル」を確立して全国に発信できれば素晴らしいのではないかと思います。

### 山田さん

まず、協働を考えると循環型社会の構築をしてほしいと思えます。

特に、子どものうちから環境教育を充実させ、学生であっても市





民の一人として循環型社会を作るのだという意識を持ってもらうための、一貫した教育をお願いしたいと思います。

それから諏訪湖浄化を推進させてほしいです。ウンカも少なくなりがきれいになったとのことですが、昭和40年代後半〜50年代の一番ひどい時期の汚染度を10とすると、今はまだ6だそうです。

まだまだきれいとは言えませんし、諏訪湖は私たちだけのものではありません。

天竜川の下流のまちの中には、天竜川のダムから水道水を取っているところもあります。その人たちのためにも、もつと浄化しなければいけないと思います。

市民運動としては、アダプトプログラムで区間を請け負って、清掃活動を頑張っている人たちの努力により、諏訪湖一斉清掃してもゴミがあまり見当たらなくなっただという成果があります。

ただ、残念なことに県行政の施策として、諏訪湖の浚渫が中止になってしまったことです。

県に働きかけをして再開を検討してほしいものです。

もう一つ、安全で安心に暮らせるまちづくりということで市民安全安心条例が制定されましたが、市民生活を脅かす問題を解決して市民の安全を確保し、「岡谷に来

たら安心して暮らせる」と誇れるまちづくりを官民一体となって進めていただきたいと思います。

### 市長

環境問題も福祉問題も、子どもの頃からの教育が大切で、環境や福祉を守る風土をつくらなければいけないと考えています。

諏訪湖の浚渫は、知事に働きかけをしていきますが、なかなか難しい状況であります。

### 山岡さん

高校を卒業して県外に進学した若者が、就職のために帰ってくる魅力あるまちづくりを進めてもらいたいと思います。

また、行政としては、子どもたちの未来のために環境問題や福祉教育を充実させていただき、家庭でも小さいうちからゴミの分別を教えるなど、親が良い見本を示していきたいと思っています。

### 市長

優良な就労の場がないと、まちは衰退します。

行政として出来る事は積極的に進めており、6つの大学と産学官連携を行い、岡谷のものづくりを支えています。

経済産業省も、岡谷市はナノテクノロジーのリーダーとなる都市

ということ支援してくれてます。

### 井口さん

私は、次の世代を担う人をどう育成していくかという、人材育成が大きなテーマだと思っています。

私の病院の話になりますが、職員の採用の際に、少子高齢化の影響で若い世代が減ってきていることを強く感じます。

医療・介護の現場で人材確保には苦労があり、当面つづく高齢化社会を支える人材を育成していく上で、大きな問題になっています。

国は、海外から介護・看護の人材受け入れを考えているようですが、それでも追いつかないのではないのでしょうか。

岡谷市には2つの公立病院がありますが、医療・介護の人材確保についても、お力添えをお願いしたいと思っています。

合併を前提で考えてきた介護保険は、国から市町村独自の運営に任せましたが、行政と民間の協

力体制がもう少し必要で、民間任せに捉えられることがあります。もつと踏み込み合う必要があると思います。

製造業はグローバル化し、世界と交流しています。語学教育は早めに取り組まなければ、対等に渡り合っていないのではないか思います。

市の独自性を出し、グローバルな人材育成を進めてほしいと思います。

### 企画部長《進行》

みなさん、岡谷市がさらに発展することを期待されているわけですが、最後に市長さんより一言お願いします。

### 市長

本日は、高い見識に立たれたお話をいただき本当にありがとうございます。

今後は合併せずに自立のまちづくりを、市民のみなさんと行政の協働により進めていくことになりましたが、市政のかじ取りをあやまらないよう市民総参加で、この難局を乗り越えてまいりたいと考えておりますので、より一層のご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひします。

夢のある新たなまちを、一緒につくっていきましょう！

